

2011年10月号

通巻 574号



圓環

発行所 生長の家ブラジル伝道本部

発行人 村上真理枝

だい かい せい ちょう いえ せい ねん かい ぜん ごく たい かい
第 56 回生長の家ブラジル青年会全国大会





「人類の残した遺跡に思う」

せいちょう いえ きょうかそうちょう むかい よしお
生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫

がっしょう
合掌ありがとうございます。

ドイツ国のハイデンプルグにその城の遺跡を見物させて頂き人類の足跡の偉大さに感心いたしました。十七世紀に建設されたその建物とその当時を回想する時、当時の文明にして如何なる努力と申しましょうか、技術的には現在の機械的機構がなかった当時にして如何にして地形的にも現在でも大変な位置に偉大な城を建設した事に感心いたします。

当時の設計者の能力と技術的能力の高さに感心いたしました。現在の技術は凡て機械に依存しコンピューターに依存して設計される。当時を思う時、果たして現在の人間が偉いのか以前の人達が偉かったのか判断に苦しむことがあります。

翌週はペルー国の光明講座に出張いたしました。もう既に数回訪れておりますが、首都リマ市はここ数年発展をしており特に飛行場が大変立派になっており感心いたし、当地の幹部に伺いましたら政治的に安定しており、観光客が大勢くることで改修されたとのことでした。

通常のホテルでなく新しいホテルで Kingdon というホテルに投宿いたしました。

翌朝の朝食が通常にはない中国の食事がたくさんあるので驚きました、テレビの番組も中国のニュースでした。資本家が中国人で有ること納得いたしました。

さいがっしょう
再合掌

ドイツの遺跡のみならず、確かにペルー国もインカ帝国の遺跡が豊富で、どこを見物しても先ほど述べたドイツのお城とまた趣きが完全に変わり、石で築かれた代表的な遺跡があり、クスコ市にあるインカ帝国の遺跡は建設半ばですペイン国の進入があり、閉ざされたとの事ですが、残された遺跡には何十トンもの石が積み重ねられ其の密着されている部分は一部の隙間もなく、その昔どのような測量で計算されたかはみちすだそうです。特に市の一部が前帝国当時の路地及び城壁になっており、そこにある一つの石には十一角の角度が有りそのどれもが完全密着で一部のすきまも有りません。ただ驚くほかなく先住民のその当時の技術に脱帽するのみです。さらに世界的有名なマチュ・ピチュもクスコ市から車で3時間程度の地点にその遺跡が存在し、インカ帝国の完全な土木技術が観測され急勾配な山の斜面に石で壁を作りその中に土をいれて作物を生産されたそのことは、当時の人の想像力及び実行力は、谷口雅春先生がお説き下さる人間の無限力、と無限の可能性を其の昔にすでに発揮し、現在の私達に示して下さっているかの様に思います。

先住民に負けない力を発揮して先住民に負けない新しい住みよい世界を建設しようではありませんか。



「言葉は創造力」

せいちょう いえ でんどうほんぶ りじちよう むらかみ まり え
生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝

がっしょう
合掌、ありがとうございます。

言葉は創造力ですから、人間が毎日口癖のようにいつも発する言葉や想念、それに行動は人間の運命を形成するのでありますから、人間は自由自在に自分の人生も運命も好転することができるのであり、これほどすばらしいことはないのであります。病を患っていたり、経済状態が悪かったり、さまざまな難題で悩んでいる人は、今まで自分が使用していた言葉や想念がそのような境遇を生み出していたことを反省し、言葉を改め神の子人間にふさわしい、喜びと感謝に満ちた明るい、良い言葉、祝福の言葉を使うことによってそれらの問題は太陽に照らされた露の如く、完全に消え去ってしまうのであります。よい家庭、よい職場、よい社会等を築くのは毎日私たちが何気なく使っている言葉、想念、行動であることを再認識し、誰に対しても神の子にふさわしい言葉で接しましょう。言葉が創造力だというのは、言葉は「神」だからであります。私たちがどんな言葉を発し何を欲するにしても、私たちの背後には私たちの欲するものを形となって顕しめようとする宇宙霊、つまり神様が控えているところを一時も忘れることが出来ません。このことを実証する体験を一つ紹介いたします。

ねんまえ (1982)、Xanxere 市在住の Silvana

さいがっしょう
再合掌

Weiss Romani 氏は生長の家のみ教えにふれて感動し、初めて生長の家の集會を自分の家に幾人か集めて開催しました。将来この町に生長の家の教化支部を設立することを皆で約束して立派な会館を立てることも相談し、会館の正面図を皆で考え、それを議事録に書いて残したのであります。年月は過ぎ、Silvana 氏は地方講師を拝命し、1989年にXanxere市にめでたく教化支部が設置されて彼女は教化支部長を3期務めました。不幸にも1994年に死去しました。29年前のあの第一回目の生長の家の会合で話し合ったことを思い出す人もなく年月は過ぎ、一年半前に現教化支部長 Sandra Regina Garcia Monteiro de Paula 講師は当時の教化支部組織代表者会メンバーと教化支部会館を建設することを決議し、今年の6月にめでたく落慶式が行われましたが、借用していた前の教化支部会館から新会館に引越しをする際に29年前のあの会合の議事録が出てきてそこに載っていた会館の正面図が何と完成された新会館の正面図とまったく同じであることを発見したのであります。

このように、言葉は創造力だということを思い返し、常によい事のみを思い、よい言葉だけを使用するよう心がけましょう！

第56回生長の家ブラジル青年会全国大会

テーマ：「あらゆる色のブラジル・すべての夢の生地」



即興のショーでステージと聴衆席が一体となる
Momento em que o palco e platéia se uniram em um só show

「あらゆる色のブラジル、すべての夢の生地」をテーマにした第56回生長の家ブラジル青年会全国大会は、サンパウロ市イビラプエーラ体育館及びペルナンブッコ州オリンダ市(ブラジル北東)のペルナンブッコ・コンベンション・センターの二つの会場で開催された。サンパウロ会場の主要指導者はラテンアメリカ教化総長、向芳夫本部講師で、オリンダ会場は、生長の家ブラジル伝道本部理事長、村上真理枝本部講師であった。

休憩時間のショー
昼休み時間(11時55分～13時25分)には、舞台が大きなダンスホールに様変わりした。パウロ・セザル・ホッシャ・ヒベイロ講師の呼びかけでステージと聴衆席が一体になり、即興のショーが展開された。生長の家の青少年の力が結集された舞台は、全国の青年たちが一年間サンパウロのイビラプエーラ体育館とオリンダのペルナンブッコ・コンベンション・センターを満席にするために熱心に取り組んだ努力の頂点



喜びを胸に早朝から会場に詰め掛ける若者
Jovens ingressam no Ginásio com o coração radiante



たいいくかんちゅうおううえ こ おおがた ちゅうけい
体育館中央上の4個の大型スクリーン。オリンダとの中継も映し出される
4 telões instalados no Ginásio. Visualização das transmissões de Olinda

であった。

敬意表示

松田巳代志先生の生誕百年記念のお祝いの言葉は、サンパウロ会場では寺前継雄本部講師、そしてオリンダ会場では村上真理枝本部講師によって、ブラジル生長の家の先駆者の松田巳代志先生(1911年 - 2000年)に哀悼の意を表した。

Tシャツ全国コンクール

コンクールには、33の教化支部から30種類のTシャツの申し込みがあった。第3位に選ばれたのはサンタ・カタリーナ州(ブラジル南部)フロリアノポリス教化支部とミナス・ジェライス州(ブラジル中部)トリアングロ・ミネイロ・エ・アウト・パルナイーバ教化支部、第2位はパラナ州マリンガ教化支部、そしてパラナ第二教化支部(日語青年会)である。優勝はサンタ・カタリーナ州クリシューマ教化支部である。受賞者には松田巳代志トロフィーが渡され

た。オリンダ会場では、リオグランデ・ド・ノルテ州ナタール教化支部が特別賞を受賞した。

新曲全国コンクール

新曲全国コンクールの受賞者は次の通りである。受賞者には松田巳代志トロフィーが贈呈された。

第1位 - Música Coração de menino (少年の心)、ホナウド・カルヴァーリオ、ゴイアス州(ブラジル中部)ゴイアニア教化支部。

第2位 - É a Vida de Deus (神の命だ)、ブレンドン・ベウシオル、ジョアナ・マイア、ペルナンブッコ州ジョン・ペソア教化支部。

第3位 - Queime a ponte que acabou de atravessar (背水の陣を敷け)、ホドリゴ・パンシーネ、サンパウロ州カンピナス教化支部。

キャラバン

大会に参加するために最長距離を移動したのは、バスで片道二日間かかったパラ州ペレン教化支部のキャラバンであ



上：オリンダ会場担当講師：左からイヴォネ・オランダ講師、エニオ・ハラ本部講師、村上真理枝本部講師、ブルーノ・チバー光実委 Palestrantes do Centro de Convenções de Olinda

下：オリンダ会場 Auditório de Olinda

る。参加者がもっとも多かったのは、サンパウロ州サン・ジョゼ・ド・リオ・プレッ
ト教化支部（3位）、サンパウロ州カンピナス教化支部（2位）、そしてブラジリア教化支部（1位）である。3位までの教化支部は運営委員会から松田巳代志トローフィーが贈呈された。

第57回全国大会にむけて

生長の家ブラジル青年会会長、カルロス・アウベルト・ダ・シウバ講師は、第57回生長の家全国青年大会のシンボル旗をリオ・グランデ・ド・スール州（ブラジル最南）



イビラプエラ体育館担当講師：左から：向芳夫本部講師、カルロス・アウベルト講師、アリオヴァルド講師、シルヴァーナ講師 Palestrantes do Ginásio Ibirapuera

パッソ・ダ・アレイア教化支部の代表に
手渡した。オリンダでは、アラゴアス州マ
セイオ教化支部の代表に渡された。この二
つの教化支部は、今年のペルナンブッコ州
レシッフェ教化支部と同様に、2012年度
の第57回全国大会を、メイン会場のサン
パウロと三ヶ所で開催される。来年の全国
青年大会のテーマは「善を実行しよう」である。

メッセージ

オリンダ会場にも中継されたメッセージ
で、向芳夫本部講師は松田巳代志先生から
我々が預かった尊い財産を、ブラジルやラ
テンアメリカだけでなく、全人類を光明化
する使命があるのだと強調した。

最終講義

大きな夢を抱くことを教えてくれた大会
そのものが、生長の家ブラジル青年会会長、
カルロス・アウベルト・ダ・シウバ講師や
その献身的なチームの偉大な夢の結晶で
あった。 (Círculo da Harmonia より翻訳転載)

聖市・『生長の家の日』を祝う



Dia da Seicho-no-Ie na Câmara

サンパウロ市議会議事堂にて、去る2011
年8月15日、第15回『生長の家の日』を祝
う記念式典が行われた。

『生長の家の日』は当時市議員だった
田場ジョルジ講師の提案により、1997年に
制定され、サンパウロ市の年間公式行事に含
まれており、1997年6月13日法令12.372
号に従い、毎年8月5日に開催されているが、
今年ドイツで行われた国際教集会のため8
月15日となった。

『生長の家の日』は、1985年のパラ州ベ
レン市を第一号とし、1997年からは多くの州
や市で制定され、現在ブラジル全国の13ヶ所
で制定されている。

記念式典の議長、神谷牛太郎市議が開式を
宣言し、サンパウロ州知事を始め、各省庁
からの祝電が届いた。次いで、壇上に立った
式典議長神谷牛太郎市議、田場ジョルジ
講師、ラ・米教化総長・向芳夫本部講師、ブ
ラジル生長の家伝道本部理事長・村上真理枝
本部講師、々副理事長・寺前継雄本部講師、

野村アウレリオ市議が紹介された。
生長の家伝道本部のコーラス隊と参加の皆
さんのブラジル国歌斉唱後、ドウグラス・ボ
テリョ講師が大調和の神示を朗読した。再び
コーラス隊による発表が行われ、多国籍民族
のブラジルを象徴するかのよう各国の名曲
が披露され、参加者からは拍手喝采が会場に鳴
り響いた。

ラ・米教化総長・向芳夫本部講師の挨拶
に続き、ブラジル生長の家伝道本部理事長・
村上真理枝が挨拶を行い、サンパウロ市議会
にお礼を述べ、ブラジル生長の家の先駆者
松田巳代志先生に感謝の言葉を述べ、そして
この町、この国をより良い国にするためには
人類光明化運動にもっと励み、ブラジル全土
を生長の家ファミリーにしましょうと呼びか
けた。閉会の言葉で野村アウレリオ市議は初
当選から今までの道のりを語り、生長の家の
お陰で今の自分があると話された。

今年の式典の参加者は365名で会場は満席
となった。

第15回全国母親教室指導者・対策部長研修会



右：真剣に研修に取り組む参加者。

左上：リクレーションで緊張もほぐれ、リズムに乗ってステップを踏む皆さん。楽しい一時。



愛情のこもったお手製のクッキーが参加者へ手渡された



第15回全国母親教室指導者・対策部長研修会が去る6月18日、伝道本部別館で行われ、担当講師は、寺前継雄本部講師、リアン・スジ・バッフィ・ノリマツ本部講師補、尾崎まさえ講師、塩見照子講師、松崎富子講師が指導にあたった。

寺前継雄講師の第一講話で、リオ・グランデ・ド・ノルテ（ブラジルの最北東）マラカジャウーにある大調和財団が経営する学校には今280名の生徒が在学中。

昨年第一期性の卒業式が行われた。一生徒の母親が娘が「お母さん、私は貴方を愛しています！と初めて抱擁してくれました。」と喜んで御礼と報告に来られた。この学校のある集落はほとんどの人が漁師である為、あまり仕事がなく昼間からピンガ（サトウキビの焼酎）を飲み、

家庭で暴力を振るうことがたびたびある。子供が5人でそれぞれの父親が違うという家庭もある。

このような環境で今生長の家の御教えが少しずつ受け入れられている。

夫婦の仲が悪いと良い子が育たない。生長の家の教えは愛の教えであるから、夫婦が仲良く暮らすのが普通である。そのためには相手の欠点を見ない。愛を持って優しくつつむと欠点がなくなる、と夫婦円満の大切さを語った。

研修会では母親教室の重要性、夫婦円満の大切さ、幸福に生きる根本の道、母親教室の指導者の心構えなどについて講話が行われた。

母親教室の集まりを開くのは、母親は子供を導き、教育に重要な役割をもっているからである。母親教室は白鳩会の



担当講師：向って左から 寺前継雄本部講師（伝道本部副理事長）、塩見照子講師、松崎富子講師、尾崎まさえ講師。

活動の中で最も重要な活動の一つである。教育はいつも「今」が始まりであり、過去にしつげに失敗したからといって心配は要らない。胎教が間違っているかまわぬ。人間の本质は生命であり、霊であり、神性であるから傷つけることは出来ない。神の子が様々な人生を展開する時個性となって現れ、その個性が現れたのが天才である。人間は皆天才の素質をもっていて、それがもっとも素晴らしく個性となって現れたのが個性的天才である。その個性的天才はいつ作られていくかという、それが実に「今」なのです。今以外に時は無い。

「7日にして生まれ変わる」と七つの宣言が挙げられた。

- 日曜日：わが子よ有難うの日
- 月曜日：お父さん、お母さん有難うの日
- 火曜日：夫よ、妻よ有難うの日
- 水曜日：暖かいコトバの日



講話中のリアン・ノリマツ本部講師補（白鳩会会長）



満席となった会場

木曜日：絶対「はい」の日
金曜日：ニコニコ笑顔いっぱいの日
土曜日：自分自身を賛嘆し感謝する日
結語で寺前本部講師は大調和財団が経営するリオ・グランデ・ド・ノルテ州マラカジャウーの学校の母親達が練成会に参加したいとの申し出があったと話された。子供の教育には母親が大切であり、母親は神の謙虚な使いであり、地上天国を実現する。生長の家は地上を天国極楽にしようという人達の集まりである。

明るい家庭を作り、夫に中心帰一をし、夫婦中が良いと家庭が繁栄し、子供は元気に育つ。母親教室に新しい人が来ないのは、喜びが足りないからである。また参加したいと云う気持ちにさせるような魅力ある母親教室にしましょうと参加者に激励の言葉で締めくくった。

生長の家 相愛会・白鳩会 幹部研修会



研修会で真剣に祈る参加者

生長の家相愛会・白鳩会幹部研修会が去る6月19日(日)生長の家ブラジル伝道本部別館にて開催された。担当講師は田丸ルイス講師、(生長の家ブラジル相愛会会長)、担当補佐、山本ジュリア講師(生長の家ブラジル白鳩会副会長)、そして、招待講師、リリアン・スージ・バッフィ・ノリマツ本部講師補(生長の家ブラジル白鳩会会長)、野村輝夫講師(生長の家ブラジル相愛会中央委員)が指導にあたった。

今回も昨年度に続き大勢の幹部がブラジル全土から集って研修を受けた。

午前6時30分早朝神想観及び聖經読誦を横山寿彰講師の先導で行った。

その後、カフェー及び受付を行った。

8時30分尾崎勝伝道員と前園敏子講師の司会で始められ、聖歌、日伯両国歌斉唱の後、実相礼拝、開会の祈りは

田丸講師、開会の挨拶は平島峯子講師によって行われた。

第一研修はリリアン スージ バッフィノリマツ講師 <なぜ生長の家の幹部であるか> 生長の家の各員は毎日神想観を実修し七つの光明宣言 菩薩の信条、及び行事を納得の行くように指導された。

第二研修は野村輝夫講師<成功への計画とは> 計画の大切さについて説明された。

体験談発表 白鳩会より橋本よし子講師 SP5、相愛会 満生輝夫ペドロ講師 PTA 1、二人とも運動体験を発表された。

討論会 テーマA <拠点の強化についての計画の立て方>

テーマB <後継者育成についての計画の立て方>

- 1) 子供会——白鳩会
- 2) ジュニア会——青年会
- 3) 青年部——青年会



左上：研修会の担当講師



外三枚：討論会の風景



大越マリオ講師が説明される。20グループに組み分け討論、テーマに基づき各グループの意見が交わされる。その後時間の関係で5組のグループが意見を発表する。最後に大嶺勉講師による結論、何事も真心をもってやっておればすべてうまくいく。考えるだけでなく実行することが大事である。

ロライマの福田みちえさんが日本人の少ない所で文化協会を作り上げた。日本語がっこうで出来60人の生徒がいる。やる気があれば何事もできる。すべて熱情ですよ、と語られた。

昼食後、質疑応答、<青年部協力、壮年部、若鳩部について>田丸ルイス講師、

山本ジュリア講師、横山寿彰講師、横山雅志講師、横山ローザ伝道員の解答によって質疑応答が行われた。

第3研修 <月刊誌の普及及び祝福礼拝について> 山本ジュリア講師は、祝福礼拝など体験を通じ、足川水依子講師は月刊誌の体験発表を含んで説明された。

「私達は一人一人選ばれた幹部であります、皆様がんばっていきましょう」とやさしく、愛深く話をされた。

第4研修 結語 田丸ルイス講師は <使命に生きる> のテーマで私達は無限のうりよくしゃ、能力者であると、力強く指導され、意義ある研修会を終了した。

連載・真理の勉強(第3回)

『新しいチャンスするとき』

谷口清超先生著



生と死

教えるとか、伝えるということほど、学ぶことの大きいものはない。又、そうでなければ本当のことは伝わらず、大学の先生方も、そのようにして「教えつつ学ぶ」のである。北海道の帯広市西十九条南四丁目に住んでおられる井崎涼子さん(昭和二十三年八月生まれ)は、平成十年九月二十七日の総本山団体参拝練成会で、次のような体験を話して下さった。涼子さんはご両親が生長の家を信仰しておられたので、生れた時から生長の家の信仰の中で育てられた。

こういった人々は、自分ではそうと気付いていなくても、散々苦労して、やっと入信の動機をつかむ人々(私もその一人だが)と較べると、この世に生れ出る前世において、何らかの善行を積み、信仰的であったということが出来るだろう。そこで涼子さんは五十年間ずっと「生長の家に浸って来た」ということだ。幼いころは生長の家の子供会に入っていたし、高校生のころは“生高連”(生長の

家高校生連盟)で活動し、さらに青年会でも活躍した。

こうして特別困ったこともなく昭和四十七年に久朝さんという今のご主人と結婚し、その後四人の子供(長男・長女・次男・三男)をもうけた。すると昭和五十五年十月のある日の朝、秋雨がしとしと降っていたとき、涼子さんは娘さんと共にご主人の出勤を見送った。それが久朝さんとの“今生の別れ”となったのである。

ご主人の車に、四トン・トラックが一時停止をせずに衝突したのだ。このトラックは運送会社のもの、ご主人の会社とも取引があった会社で、久朝さんは即死であった。人はみなこの世の一生を終り、しばらくは霊界の“控え室”に当たる中陰(中有ともいう)にいて、次の世(次生)に生れ変わるのを待機するのだが、この人々を「求生」と呼ぶことがある。生れることを求めているからだ。それは全ての人生が「学校」のように学ぶ場所であり、それを求めるから仏教では求生と呼ぶ。そしてこのような即死は、

高級霊にもありうることだ。それは急速な肉体からの離脱は、多くの業因を脱落するから、ちょうど大急ぎで家を出る時には、ほとんど何も持たず(執着を放して)去ると似ている。だから魂の進化には役立つのである。

しかしあとに残された家族は、一時途方にくれるかも知れない。このような時にでも、過失の相手を恨まず、憎まらず、その幸福であることを祈り願ってあげるくらいであると、その後の家族一同の魂もまた急速に進歩し、全てのことが一層順潮に流れ、幸福な生活をさらに続けることができるものである。又、このような体験を経ることによって、その学んだことを他に伝え、多くの人々がこの世の怨みや憎しみを“捨て去る道”を教えることができるし、又そのようにして自らの体験を生かすのである。

観世音菩薩

丁度その時、井崎さんの子供たちは、長男が小学二年生、長女が小学一年生、次男が四歳、三男が一歳七ヶ月であった。涼子さんは「大変ですね」という周囲の人々の言葉にはげまされ、

「一生、この子たちを、自分の手で育てます」

と宣言して、明るく生きた。しかし一時は「こんなに生長の家をやって来た

のに、どうしてこうなったのだろう」と思い、暗い気持ちになったこともあったという。するとその心がすぐ子供に現れて来る。今まで明るく、のびのびと育っていたのに、何となく暗くなった。末の子を抱っこして、涼子さんが涙ぐんだこともある。するとその子が母親の涙をやさしく拭いてくれるのだ。

「あ、こんな気持ちではいけない！」と反省した。そのような時は、子供が母親に教えてくれる。“教える”とは、上から下にするものとは決まっていはいない。小さい子が大人に教えてくれることもよくある。そうしながら、子供もまた大人から多くのことを教えられる。相手の心を映し出すことが、教えることにもなるのであり、「観世音菩薩」の教えとはそうしたものだ。それ故全ての人や物が、「観世音菩薩」であると言えるのである。

そのような経験を経て、涼子さんは外に出て行って世の中のためにお役に立とうと決心した。それが夫の願いでもあると思ったからである。そこでまず四人の子供のPTAの役員を一つずつやり始めた。すると四人分の先生や父母のお世話を受け持つことになった。しかもその奉仕的な仕事が、彼女の魂の栄養となり、“財産”となったのである。

その背後には、生長の家の教えがあった。どんなことがあっても、神様に護られている、自分の力ではない、夫も生き

ておられて、私たちを守っていて下さる
 — と思うことができたからだ。子供
 を育てているのも、私 独りで育てている
 のではないということが分った。地域の
 人々にも守られ、育てられている。まし
 て涼子さんの両親も、近くにいて見守っ
 ていて下さるし、実父なども、「自分が
 子供の父親としてやって行くんだ」と
 おもって、かえって若返って下さったほど
 であった。

こうして現在ではこの四人の子供さん
 たちも、夫々家庭を持ち、孫も生れた。
 その過程では色々なこともあったが、た
 いてい一晩で解決した。あとは、

「神様に全託するしかない」

とおもって、それを実行した。すると全
 ての問題がひとりでに解決して行ったの
 である。

「どうぞ、なるように成らせて下さい。

おあずけ致します」

と神に全託すると、色々なことが
 不思議に整ってくるのであった。長男さ
 さんは大学生の時に子供ができて、結婚し
 た。そして子供を育てながら留年するこ
 ともなく卒業し、さらに就職し、二人の
 子供を育てている。長女さんも結婚して
 、平成十年一月に子供が生れた。

涼子さん自身も平成六年十二月に
 白鳩会連合会の副会長になり、平成七
 年の六月に副会長兼事務局 長となり、
 教化部職員となった。(29) こうしてとても忙

しく伝道の仕事に挺身していると、三男
 さんの卒業や進学と重なっても、全てう
 まく行った。長女さんが出産する時も、
 丁度教化部の休みの日の前日に陣痛が
 起ったので、出産の時はゆっくりと世話
 をしてあげられたということだ。

神に全託する

退院してからも、家に帰ると婿さんが
 育児にせいを出し、布のおむつを買って
 来て、洗濯してくれるし、沐浴させてく
 れた。結婚する前にも、彼は時々涼子さ
 んの家に来て、掛かっている「日訓」(ひ
 かりの言葉)を見て、一つ一つ聞くのだ。

「これは、どういう意味ですか」

「神の子とは、どういうことなの？」

「この本は、どこにあるんですか」

そこで涼子さんは一所懸命で説明を
 すると、彼と娘さんとはニコニコしなが
 ら聞いていてくれたので、少しずつでも
 生長の家の中味を伝えることができた。
 出産の時も、彼は分娩に立ち合ってくれ
 た。そして大いに感動した。無事子供が
 生れると、涙を流して喜び、次の日に彼
 の実母に、

「僕を生んでくれて、本当に有難う」

とお礼を言ったそうだと。妻の出産が、
 それを身近に見た夫に、母親の愛の心を
 教えてくれたのである。一人の子供が生
 れることによって、その子は、父にも、
 母にも、さらに祖父母にも、色々なこと

を教えてくれるものだ。又大人たちがそ
 の子に、そして孫に色々なことを教えて
 くれ、そして子も親も教えられて学ぶの
 である。

このようにして人生は教えられ、学び
 続けそして伝えるのである。何を学び、
 何を伝えるか、それが最も肝要であっ
 て、迷妄や欲望第一を伝えたり、それを
 “個性”だと思い込んだり、伝えたりし
 てはならない。欲望は肉体保全のための
 一種の道具である。それを神のみ心のま
 まに善用することが大切で、神を否定し、

欲望に第一の位を与えてはならない。そ
 の点をキリスト・イエスは、
 『富める者の神の国に入るは如何に難
 いかな。富める者の神の国に入るよりは、
 駱駝の針の穴をとおるは反って易し』(ル
 カ伝第十八章 二十四—二十五)

と教えられたり、

『まず神の国と神の義とを求めよ、然
 らば凡てこれらの物は汝らに加えられるべ
 し』(マタイ伝第六章 三十三)

と教えられたのであった。

- (01) 教えつつ学ぶ aprender ensinando (02) 散々苦勞して sofrer duramente
- (03) 動機 motivo,causa (04) 善行 boa ação (05) 浸って entregar-se (06) 秋雨 chuva de outono
- (07) 出勤 ida para o trabalho (08) 今生の別れ último adeus desta vida (09) 衝突 colisão
- (10) 取引 relações comerciais (11) 即死 morte instantânea (12) 控え室に当たる equivalente à sala de espera (13) 待機 aguardar (14) 急速 rápido (15) 肉体からの離脱 abandono do corpo carnal
- (16) 業因の脱落 eliminar causas carmicas (17) 執着を放して desapegar (18) 魂の進化 evolução espiritual (19) 途方にくれる sentir-se perdido (20) 過失の相手 o culpado (21) 一層順調に流れ transcorre mais satisfatoriamente (22) 捨て去る道 perdoar (23) それ故 por esta razão, por isso
- (24) 奉仕的な仕事 serviço voluntário (25) 背後 por trás (26) 地域 região
- (27) その過程 no percurso (28) 留年 repetir(ano escolar) (29) 兼 simultaneamente
- (30) 挺身 empenhar-se (31) 陣痛 dores do parto (32) 育児にせいを出し cuidar do bebê com afinco (33) 沐浴 dar banho (34) 出産 parto (35) 分娩に立ち合う estar presente no trabalho de parto (36) 祖父母 os avós (37) 肝要 muito importante (38) 迷妄 ilusões, ideias errôneas
- (39) 欲望 desejos, ambições (40) 個性 característica pessoal (41) 肉体保全 integridade do corpo carnal (42) 善用 usar adequadamente

26/07/2011 ~ 26/08/2011

圓環ご協力者ご芳名

(単位・レアイス)

せいし 1 - ヴィラ・モラエス相・白会様 100,00
 セントラル2-あけぼの相・白会様 200,00
 々-----大塚茂樹様 50,00
 ABC-----前園前光様 100,00
 せいし 5-----作本正子様 100,00
 々 --- ヴィラ・グスターボ相・白会様 300,00
 ノロエステ1 -----西川幸彦様 30,00
 々-----西川美代子様 30,00
 々-----西川法彰様 30,00
 々-----西川巖様 30,00
 々-----西川たかし様 30,00
 々-----高橋寛治様 30,00
 ノロエステ1-----高橋忍様 30,00

々-----中田明彦様 30,00
 々-----西川雅則様 30,00
 々-----西川泉穂様 30,00
 々-----佐藤栄様 30,00
 々-----高橋俊次様 30,00
 々-----高橋貞二様 100,00
 せいし 3-----ブルクリン相・白会様 100,00
 せいし 2-----重松富子様 30,00
 せいし 4-----松浦昭子様 50,00
 せいし 2-----カシャキー相・白会様 50,00
 せいし 1-----瀬尾愛子様 50,00
 せいほく 1-----中原加代子様 50,00

各教化支部、又多くの会員の皆様から円環へのご芳志を頂き、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

地方便利



聖市第5教化支部は、去る2011年1月20日に「希望の家」を訪れ、紙おむつ、食料品などを寄贈した。



ABC教化支部は2011年5月30日に児童養護施設を訪れ、食料品、日用品などを寄贈した。

地方便利

歳末助け合い運動



聖市第6教化支部は、次の「児童養護施設」を訪れ浄財を寄付した。Casa da crianca Betinho/Assoc.Casa da crianca Nossa Senhora Aparecida/Comunidade Cantinho da Paz/Lar Dona Cotinha



パラナ第1教化支部は2010年度の歳末助け合い運動で保育園 Casa do Caminho, 養老施設 Asilo Sao Vicente de Paulo とロンドリーナ癌病院を訪れ、日用品を寄贈した。



ソロカバナ1教化支部は Santa Casa de Alvares Machado (病院) と Entidade Bem me quer を訪れ、浄財を寄付した。



聖市第5教化支部は Lar do Idoso Augusto Alves 養老院を訪れ、浄財を寄付した。



ソロカバナ1教化支部は APAE 施設を訪れ、浄財を寄付した。

皆様の多大なる御協力を得て、2010年度の年度末助け合い運動は素晴らしい成果を上げることができました。合計 R\$ 507.656,00 を募り、全国469の福祉団体に寄贈することが出来ました。ありがとうございました。

ち ほう だよ
地方便り



聖市第3教化支部は、2011年5月18日に Centro Espirita Paulo e Estevão 養老院を訪れ、生長の家の普及誌と紙おむつを寄贈した。



セントラル第2教化支部は、2011年4月5日に GRAAC Hospital do Câncer (癌病院)を訪れ、浄財を寄付した。



セントラル第2教化支部は、去る2011年3月21日に ASETE-障害者施設を訪れ、食料品や日用品などを寄贈した。



パラナ第3教化支部は、去る2011年2月15日に APAE 福祉センターを訪れ、食料品や日用品などを寄贈した。



セントラル第1教化支部は、去る2011年5月18日に Sakura Home 施設を訪れ、手料理と浄財を寄贈した。



聖市第2教化支部は、去る2011年2月28日に「憩いの園」養老院を訪れ、日用品などを寄贈した。

生長の家
塩椎の会俳壇

師の遺影拝し焼香寺小春 瀨瀨喜月
 根深汁啜り火酒飲む父なりし
 手拍子で孫に聞かせる手毬唄
 外国に餘り見られぬ手毬つき 仲宗根朝春
 初期移民コーヒー栽培物語り
 根深汁啜りて寒さ凌ぐ夜
 病床の孤独に今は句を案ず 立川 ゆう
 水槽の金魚は舞ふ如泳ぎおり
 根深汁凍中餅入れ暖かし
 珈琲熟る赤き実吸いし頃思ふ 坂本 君枝
 手毬唄唄って毬の輪をくぐる
 シネマ見にピポカ買つて入る子等
 田舎町朝方帰るピポカ売り 荒巻 重乃
 コーヒーもぎ夜は血豆の手入れして
 最近ミクロナンダのピポカ買う
 子を背負い力いっばい珈琲干す 城 良子
 思いきりうどんも入れて根深汁
 珈琲採る遠くはるかな日々あり
 南伯は見渡すかぎり銀世界 矢島みどり
 冬空は暗く小鳥の声もなし
 老紳士長いコートもシッキナリ



寒き日の句会に出されし根深汁 木村都由子
 手毬つき祖母が教へる手毬唄
 朝露に腰まで濡れて珈琲採る
 珈琲採り一獲千金夢見ては 香山 和栄
 露地奥に入れば匂ひ根深汁
 海の日や日本は四方海の国
 ピポカ炒る銃撃戦にさも似たり 立石 松男
 鍋蓋を破らんばかり音を立て
 ピポカ炒る匂ひ部屋中に満ち満ちて
 句座冷ゆや庵主もてなす根深汁 湯田南山西
 珈琲熟る六年樹という粒太く
 大砲の音めきピポカの工場かな
 桃の花桜に匹敵美しき 森西 茂行
 女の子桃子と名づけて麗しく
 キウイの実上品な味好まれて
 手作りの手毬遺として義母三年 大沢 晴子
 冬休みピポカとコーラシネマ館
 手毬模様綾なす和の美孫達へ



聖市第5教化支部は、去る2011年3月15日に Frederico Ozanam 養老院を訪れ、食料品や日用品などを寄贈した。



聖市第6教化支部は、去る2011年3月22日に Lar das Mãezinhas 福祉施設を訪れ、食料品や日用品などを寄贈した。

